

# 令和3年度 第7回教育委員会定例会

## 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年10月11日(月)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後3時50分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長
	教育委員 福里 由加	

## 会議要旨

### 1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第7回教育委員会定例会を開会した。

### 2 令和3年度第6回定例会会議録の承認

承認

### 3 議事

報告第28号 垂水市教育委員会国体推進課所管に係る補助金交付規則の一部を改正する規則について

議案第14号 垂水市通級指導教室通級費補助金交付要綱の制定について

議案第15号 垂水市スポーツ推進計画の見直し及び運営委員会の設置について

### 4 その他

### 5 委員並びに教育長及び課長報告

### 6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第28号 垂水市教育委員会国体推進課所管に係る補助金交付規則の一部を改正する規則について</p>	<p>垂水市教育委員会国体推進課所管に係る補助金交付規則の一部を改正する規則について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項 鹿児島国体が令和5年度に延期になった時点で改正が必要だった。</p>	
<p>議案第14号 垂水市通級指導教室通級費補助金交付要綱の制定について</p>	<p>垂水市通級指導教室通級費補助金交付要綱の制定について、教育委員会に議決を求めるものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第15号 垂水市スポーツ推進計画の見直し及び運営委員会の設置について</p>	<p>垂水市スポーツ推進計画の見直し及び運営委員会の設置について、教育委員会に議決を求めるものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	

## 議 事 内 容 等

3 議 事	
	<p><b>報告第 28 号</b> <b>垂水市教育委員会国体推進課所管に係る補助金交付規則の一部を改正する規則について</b></p>
国体推進課長	<p>垂水市教育委員会国体推進課所管に係る補助金交付規則の一部を改正する規則について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。</p> <p>元号が平成になっていたもので、令和になったときに変更しなければならなかったが、今回、鹿児島国体延期に伴って改正するものである。</p> <p>(質疑なし)</p>
	<p><b>議案第 14 号</b> <b>垂水市通級指導教室通級費補助金交付要綱の制定について</b></p>
学校教育課長	<p>この制度自体は数年前からあったにもかかわらず、これまで本市では該当者がいなかったため制定していなかったが、本年度該当者が出てきたため、垂水市立学校に在籍する児童生徒の通級指導教室に通級させる保護者の経済的負担の軽減を図るため、市内又は市外の通級に要する交通費に対して、予算の範囲内で補助金を交付することに関し必要な事項を制定するものであることを説明。</p>
田原委員	<p>補助金の対象となる人（障害）は。</p>
学校教育課長	<p>特別支援学級に入るまでではないが、学習障害（LD）と注意欠陥・多動性障害（ADHD）の 2 種類である。要するに、知的発達層に問題はないが、学習に対するつまずきがあるとか、不注意だったり、多動になったり、学校によっては、ずっと椅子に座ってられない子がいて、方々を立ち回ったりする子も増えているようである。本市ではそこまでの子はいないが、やはり各人の持つ障害に主体的に改善を施す自立確保を週に 1 時間していけばいいのではというレベルの子を集めている形である。当然、それが改善されれば通級指導教室に通う必要はなくなるが、まだ必要だと判断されれば通うのが続いていくということになる。現在、協和小学校に 1 人、垂水小学校に 9 人いるが、垂水小学校の子は移動しなくていいわけである。それでも垂水小学校まで連れて行きたいと思われる保護者がいるというところが、非常によいことだと思っている。随分理解を示してくださる保護者がでてきたということである。「どうしてそこまでしないといけないのか。」と思われるのが本音のところだと思うが、こうやってしてもらっているとこに意義を持たれるというのは有難いことだと思っている。</p>
田原委員	<p>今、言われたみたいに保護者の理解があるなど感心した。就学指導委員会とかで、本当にその子のことを親身になって思ってくれていることだろうと思う。それをまたしっかりと保護者も受け止めていることが非常にいいことだと思った。</p>

教育長	ちなみに、このように手を打つのは低学年からの方がいいのか。早ければ早いに越したことはないのか。
学校教育課長	そうです。低学年のうちがいい。  (議案第14号 承認)
社会教育課長	<p><b>議案第 15 号</b>  <b>垂水市スポーツ推進計画の見直し及び運営委員会の設置について</b></p> <p>垂水市スポーツ推進計画の見直し(案)及び運営委員会設置要綱(案)を説明し、教育委員会に議決を求めるものである。</p> <p>本市は垂水市スポーツ推進計画を平成25年に策定し、平成26年～令和5年度までの10年計画を令和元年度に見直す予定だった。国の第2期スポーツ基本計画は令和3年度に終了し、令和4年度から令和8年度まで、第3期計画に移行する予定であることから、現行の垂水市スポーツ推進計画を3年間延長し令和8年度までとし、国の次期計画と歩調を合わせて、本市の次期計画開始を令和9年度にしたいと考えている。</p> <p>制定根拠、計画内容、計画期間の変更の経緯、委員の見直し、設置要綱(案)、見直しスケジュールについて説明。</p>
田原委員	このスポーツ推進計画はこれまで10年間の計画で、社会体育の指針という位置付けで進められてきたと思うが、今後、鹿児島国体を見越して変更するとなると、何か目玉になるものはあるのか。
社会教育課長	今回変更する中で、現在、運動公園内の垂スポについても、そのまま陸上競技場という名称で残っているので、名称を変更する。あと、国体関係のものも全然入っていないのでそれを入れ込むとか、今後、いろいろなスポーツイベント等に関することも、随時計画に入れ込むことになっている。
教育長	この2年間ぐらいコロナの影響でだいぶ運動をする機会が減り、大人も子供も体力が落ちていることが想定されるので、計画を練り直すことによって、今一度スポーツの大切さを働き掛けながら、健康を意識したスポーツ推進というところも根底にあると思う。
田原委員	高齢化も進んでいくわけで、キララドーム内にスポーツジムの器具も少しはあるが、壊れていたり、宣伝が行き届いていなかったりというものもあるが、そういうことも計画の見直しと合わせて、少しは施設もよくできないのか。
社会教育課長	スポーツジムについては、器具は委員が言われるように、故障している物もある。その事については、今利用者を対象に新しくどういった機器が欲しいかのアンケート調査を実施しているので、その結果に基づいて随時更新していきたいと考えている。

教育長	器具は確かに古くなっており、壊れたりしている。全部を一度に買い換えるとなると、非常に負担が大きいのでアンケート調査に基づき、年次的に更新していくということである。おそらく財源は、ふるさと納税基金になると思われる。
田原委員	有料にしたらどうか。
社会教育課長	今も1時間110円の有料である。
田原委員	もう少し値段を高くしても、内容が充実していれば来る人はいっぱいいるのではないか。
社会教育課長	スペース的に狭いので大人数が一度に使用できない。だいたい3～4人が一緒に使用されている。
教育長	折角だからこの際、レイアウトも含めて考えてみたらどうか。
田原委員	町によっては、個人でジムをやっているところがある。結構、料金も高いはずだが、利用者は結構いる。高くても内容が充実していれば、人は来ると思うのだが。
社会教育課長	そうなると、トレーナー付きのしっかりしたトレーニングジムの部屋を作らないといけなくなる。
葛迫委員	鹿屋の県病院の県プラはどんなふうか。
社会教育課長	県の施設であり、利用料は300円程度である。
葛迫委員	この計画は、社会教育関連施設の計画か。学校は関係ないのか。
社会教育課長	その通りである。学校の施設等とは関係ない。
福里委員	垂水高校のプールはとてもいいプールだが、借りられないのか。有料でもいいので、市民に解放すれば夜も行く人がいるのではないかと思う。昔は垂水にもアザレアのところにプールがあったが、協和少年団で国分のプールに行くのだが、「垂水にもプールがあったらいいのにね。」という話題になっている。
社会教育課長	垂水高校は県の施設であり、市の施設ではない。聞くところによると、水漏れがあるらしく、壊れていて使えないという話を聞いている。
田之上委員	垂高のプールは壊れていて使えないと私も聞いている。
教育長	長い間壊れてそのまま放置してあるのか。

社会教育課長	そうだと思う。何処が壊れていて、修理代がいくら掛かるかなどは知りませんが。
葛迫委員	それでは、垂水高校生はプールを使っていないのか。
社会教育課長	使っていないはずである。
教育長	市民にプールを解放すれば、垂水高校のイメージアップにも繋がると思うのだが。
葛迫委員	垂水高校も何か特化したものを作っていないといけないと思う。鹿屋女子高は凄く校舎が綺麗になって、募集では鹿屋女子高だけが（この辺では）1倍を超えていたと思う。
教育総務課長	機会を見て、プールが今どんな状態なのか垂高に確認したいと思う。ただし、実用的にするととなると、様々な問題があると思われる。
田之上委員	見直しで「会長」から「代表者」へ変更するのは、非常にいいと思う。会長を引き受けると、それに付随して委員（宛て職の役員等）がいっぱい付いてくるので、なかなか会長を引き受けてくれる人がいない。その組織の中から誰か代表として責任者を選出するやり方はよい方法だと思う。 次に、運動公園は夜になると凄く暗くて、垂スポ中を歩くにも足下が見えない。鹿屋の西原の運動公園は、凄く明るくて多くの人が歩いたり、走ったり、運動をしたりしていて、本当によい環境だと思っていた。垂水の運動公園は、月明かりがないときは本当に真っ暗で、もう少し照明があればジョギングされる人達にもいいのかなと思う。
社会教育課長	おっしゃるとおりである。垂スポの事務室は防犯対策で夜の8時までは電気を付けているが、他のところは外灯が少なく、暗いのは承知している。今後、前向きに検討していきたい。財政課にも要望していきたい。
福里委員	昨日、幼稚園のサッカーで垂スポを使わせてもらったが、前日に鹿実のサッカー部の人たちがコートラインを引いてくれていたのだが、当日の朝に作業員が芝に水をまいたので、コートラインが全部消えてしまっていた。水まきの時間は決まっているのか。
社会教育課長	シルバー人材センターと契約していて、朝と夕方に水まきをするようになっている。確か、朝の7時と夜の7時だったと思う。
福里委員	今からサッカーしようと思っていたのにラインが全部消えてしまい全部やり直しだった。3～4面作っていたので時間がすごくかかって、本当に二度手間だった。水まきの時間は決まっているとは思いますが、もう少し融通を利かせられないのかなと思った。それから、陸上運動公園の管理人さん達の対応がすごく悪くて、運動会の時も、涼しいところから全然動かなくて、こちらの要望（言う事）を全然聞いてくれない。（勿論、よく対応して

	くれる人も中にはいるのだが。)
社会教育課長	申し訳ありません。管理人については、公社職員が2人、会計年度任用職員が2人、合計4人いるが、会計年度任用職員は社会教育課の任用職員なのでいろいろ指導はできる。公社職員は、勿論、体育館にいたので指導権は社会教育課にあるので話はするが、総務課付けの公社職員となっている。勿論、話をして、今後このようなことがないように、私の方でも指導し、しっかり対応していきたいと思う。
福里委員	公社職員といっても、他の人から見たら「市役所の職員」と思われるのではないかと心配している。
社会教育課長	市役所で働いている人には変わらないので、そこは指導させていただきます。
福里委員	それと、芝の水まきの時間は利用者に周知すべきではないか。そうしたら今回のようなことも防げるのでは。
社会教育課長	そうである。それと今回のように準備がしてあったら、もうまかないとか、時間をずらすとか、臨機応変に対応するべきであったと思う。
	(議案第15号 承認)
4 その他 教育総務課長	11月9日(火)開催予定の第8回教育委員会定例会については、午後1時から開催する旨を説明し、了承を得る。
5 委員並びに 教育長及び 課長報告	
田原委員	<p>「9/30(木) 学校訪問(新城小学校・水之上小学校)」</p> <p>午前中の新城小学校は、学校説明資料と指導案が別冊になっていて、どちらも非常に細やかな配慮がなされた立派な資料だったと思う。運動会の慌ただしい中で、よくここまでつくっていただいたと感謝の気持ちでいっぱいであった。</p> <p>先生方がいろいろな機器の活用挑戦されていて、授業の中でどう効果的に活用したらいいかということを探られている様子が伺えた。まさに日々挑戦の姿であったと思う。子供たちは、機器の活用慣れていて、あまり個人差も感じなかった。今までは、新城小学校の子供たちは発言する声小さいという印象を持っていたが、現在はタブレットを使うことで、あまり喋らなくていい訳で、自分の答えをためらいなく進んで送信する姿が見られた。先生は皆のデータが揃った段階で、それをどう活用するかが今後の課題のように思う。議論したり、練り上げたりする授業になれば最高である。是非そこを目指して欲しい。しかし、今でも非常にレベルの高</p>

い授業であった。

午後からは水之上小学校だったが、校門での礼や靴箱の靴のかかとの揃え方など、形を整えることで心が揃うという校長先生の教えが純朴な水之上の子供たちへも浸透していていると思った。一つは親への教育の一環かもしれない。それから、過去問を繰り返しやって、問題に慣れさせるとか、根気強く諦めずに取り組むといったことが、できるようになったために学力が向上したのではないかと思う。その手段として、教科ごとの取組の明確化、こういう取組をしなさいよというのがちゃんと見えていたので、土曜授業の学力向上の時間のカリキュラムなどここまで気を遣って行っているということが分かった気がした。諸検査への対策が具体的で明確化されていたので、先生方が取り組みやすいのだろうと思った。過去問を学習する取組はすばらしいと思った。

ただし、授業においてはもう少しメリハリのある児童が元気よく活動する授業を目指してほしいと思った。秋晴れのさわやかな天気のように、とても学ぶことの多い充実した一日であった。

#### 「9月30日の学校訪問（新城小・水之上小）について」

葛迫委員

新城小学校については、新城地区の人材や素材を活用した「ふるさと先生」による、伝統文化の継承や農産物の生産活動・体験、昔懐かしい遊びなどの体験を経験した新城小の児童にとって「新城を知ること」・「新城を学ぶこと」・「新城を考えること」、このことが大人になった時に子供たちにどう生かされるか楽しみです。故郷新城をいつまでも大切に思い、どこにいても故郷新城を愛することができる子供たちの育成。今後もこれからも続けてほしい教育だなと思った。

水之上小学校についても、新しい花峯校長先生のもとで子供たちに「四つの実践」が始まった。『雨の日や風の強い日でも自分で歩いて登下校』『立ち止まってあいさつ』『登下校の門礼』『靴箱の靴のかかとを揃える』身に付けてほしい習慣を実感させ、繰り返し続けることで、それが自分自身の生活習慣となっていき、人としてのマナーであり正しい所作が形成されていく。素晴らしいことだと思った。

#### 「10月1日の桜島・錦江湾ジオパークスケッチコンクール審査会に参加して」

去年も参加させていただいたのだが、今年も「桜島・錦江湾ジオパークスケッチコンクール」作品審査会が、10月1日午後から鹿児島市役所東別館であったので参加させていただいた。「桜島・錦江湾ジオパーク」は火山と人と自然を繋いだ生活圏、観光地、そしてイベントなど楽しい場所をつくっていくことを目標とした、鹿児島市と始良市、垂水市をエリアとしているのである。このようなジオパーク教育の一環として始まったスケッチコンクールに今年は、鹿児島市、始良市、垂水市の小学生の絵画作品が過去最多の2,709点集まった。地域別に鹿児島市は43校で2,133点、始良市は13校で559点、垂水市は4校で17点と少し少ない感じがした。今年のお品作品の特徴として、例年なら多い水族館の魚の様子や花火大会、海水浴などの夏の風物詩の絵画が少なくなったなど感じられ、コロナ禍の中で、家で過ごすことが多かった昨年から今年にかけての子供たちの様子が垣間

見れた気がした。コロナ禍の影響がいつまで続くのか。子供たちにとって、大空の下で大きく草原を駆け回り、青空の下で広い海原を泳ぐことで子供たちは大きく成長していく。今までの日常を早く取り戻したいと感じた審査会であった。

田之上委員

#### 「学校訪問したこと」

新城小学校は、清掃が行き届いており、展示物などは、子供たちの活動の様子がよく分かるものであった。授業を参観させていただき、授業の中でタブレットの活用がスムーズ且つ有効に行われていることに感心するとともに、日常から積極的に活用していることが分かった。子供たち同士も、授業の中で教え合ったり意見を出し合ったりしている姿が見られ少人数ながら活発な授業であった。

水之上小学校は、学校に行く途中が豊かに実った稲穂が金色にだんだんなってきたり、美しい風景だった。子供たちは、こうやって稲が何も無い田んぼの状態から田植えが始まり、苗が青々と茂り、そして実りの時を迎える状況（日々稲の成長していく様子）を日常的に見ながら登下校している。すごく自然豊かな環境の中で育つのだなということを感じ、活きた教材が身近にあるのはいい事だと思った。水之上小学校は児童数が少し増えたこともあり、学校中が賑やかで活気があるなど感じた。展示物なども人数が増えることで、いろいろなところに展示がしてあり、歩く度に子供たちの様子を感じることができた。授業も短い時間しか見られなかったが、しっかりとした授業が行われていて、子供たちも集中していたのではないかと思った。

両校共に、地域と連携して多くの特色ある活動が行われていて、子供たちは心豊かに成長していくのだろうと思うことだった。

#### 「発達障がいの学習会に参加したこと」

学童保育の研修の一環で発達障がいの学習会に参加した。4回あるうちの1回目の学習会だったが、現在、グレーゾーンの子供たちが非常に増えてきて、学童保育においてもそのような子供たちを引き受けることが増えているので、私達支援員も学んでいかないといけないので定期的に参加している。障害を持っている子供たちの学童保育における受け入れの実態、特性、関わり方や声掛けについて、今回、作業療法士の先生にお話を伺った。また、環境づくり、支援する者の感情コントロールなどについても話を聞くことができた。今後も、定期的私達支援員も学んでいかないといけないと感じることだった。

最後に、土曜日の瀬戸口藤吉翁ふるさとコンサートは、久しぶりの開催だったので、音楽隊のサウンドに非常に楽しい一時を過ごすことができた。アンコールでは、いつもの「行進曲軍艦」を演奏されたのであるが、個人的には、瀬戸口藤吉作曲〇〇行進曲とちゃんとプログラムに掲載してあげばいいなと思った。

#### 「学校訪問について」

新城小学校では、子供たち一人一人のタブレットの扱い方、操作の仕方の能力がとても高くてびっくりした。あれだけ能力を付けていくと、中央中に入学した時は、他の学校の生徒とすごく差がついているだろうなと思い、私の息子は大丈夫かなと心配することだった。また、先生方は非常に通る声で授業をされていて、学校全体が非常に活気に満ち溢れている感じがした。また、子供たちがチャレンジする事の大切さが感じられるように、様々な取り組みをされているのが魅力的だった。今の子供たちは新しいことにチャレンジすることになかなか踏み込めない気がする。私の幼稚園の子もそうなので、失敗を恐れずに色々なことにチャレンジして楽しさを味わって何かを得てくれたらいいなと感じている。

水之上学校では、校長先生の信念が熱く感じられた。私も「四つの実践」を通して保護者として気をつけなければいけないなと感じた。

一つ目の『雨の日や風の強い日でも自分で歩いて登下校』は、今、歩いて登校する子もなかなかいない中で、小学校の6年間、校長先生がかわれどどうなるか分からないが、少なくとも3年間、毎日続けることによって大人になった時に非常に役立つと思う。二つ目の『立ち止まってあいさつ』は、たぶん他の学校の子はしないと思う。高校の部活の強豪校の生徒は立ち止まって挨拶をしているが、うちの卒園生でも鹿児島実業の野球部にいた子は、自分たちにも立ち止まって挨拶をしてくれるので、立ち止まるとの挨拶はいいなと思った。三つ目は『登下校の門礼』、四つ目は『靴箱の靴のかかをと揃える』であるが、最近気になっていて、靴のかかをと踏んでいる子がすごく多い様な気がする。幼稚園でもトイレのスリッパにしても、自分の靴にしてもしっかりかかをと揃えなさいと指導しているが、家に帰った時はどうなのかなと思う。幼稚園では踏んでいないけど、他のところで見かけると踏んでいる。また、そんな子に限って、その子のお母さんも踏んでいるので、家庭の教育も大事だなと思った。学校でこの四つを実践することによって、大人になっても非常に役に立つだろうと思うことだった。

#### 「大野自然学校について」

10月2日、3日に江ノ島幼稚園の行事で年長さんを中心に親子で大野自然学校を利用させていただいた。親子で体育館にテントを立て、実際にテントの中で寝たり、花火をしたりした。キャンドルサービスを市役所の方がしてくださって、野外炊飯はコロナの影響でできなかったが、朝はカートドックという物を教わって作った。コッペパンみたいなものにソーセージなどを入れてアルミホイールで包んで焼いて食べた。また、牛乳パックを火で焼いて温めて飲んだりした。そういう事がすごくいい経験になったと思った。保護者の方々からも、普段テントで寝ることがないのでよい経験ができたと言われた。

これまで、親子宿泊保育やお泊まり保育は、鹿屋の自然の家に行っていた。今年初めて大野自然学校を利用させていただいたのだが、環境が非常に素晴らしく、来年からはこちらを使わせていただきたいなと思った。自然の中で、天気もよく夜は涼しく少し寒いくらいだった。マットの上で寝るのはさすがに身体が痛かったが、すごくよい体験になった。

教育長

この頃、学校教育課長とよく話をしているのが、4月から本格的に稼働した「GIGAスクール構想」のことである。確かに授業の中でタブレットを使ってはいるのであるが、もっと精度を上げて質を高めていくためには、どうしたらいいのかを常々考えているところである。授業の中でグループ活動などもうまく取り入れながら、「垂水型のGIGAスクール」の質を高めていくというところを後半戦の課題として、3月までには、「こんな授業をしてください。」と示すことができればと思っている。そのためには、先進地視察を是非行いたい。コロナ禍ではあるが、今の状態なら行けると思うので、指導主事、校長、GIGAスクール構想の推進員がチームを組んで先進地に行ってもらい、そこで学んできて来てもらって、学んだものを垂水型にして、さらに、ワンステップ上がったような使い方を授業の中に取り入れていきたいと思っている。

次に先般、福里委員からご指摘のあった「情報モラル」に関する件であるが、非常に大事なことなので、先日の管理職研修会でも話題に取り上げて、今後どういう方向でやっていくかというところを話すことだった。その中でよいアイデアをいただいたのだが、タブレットを使うときのモラル的なことを、垂水小学校の児童総会で子供たちに「タブレットをどんな風に正しく使ったらいいか。」というテーマを与えて、自分達でその使い方を考えさせる。足りないところは教諭が補足するという形で、自分たちでいろいろ決めて守らせるというようなことに取り組みたいと思っている。確かに、なかなか鹿児島県の方でも、そういう面の情報提供というところが遅れているので、今後おそらくセキュリティーの問題とか情報モラルの問題はどこもしっかりやっていかなければいけない部分なので、そこをしっかりと先行してやっていきたいと思っているところである。

あと、ちょっといい話を聞いたのでお話ししたい。鹿屋体育大学の開学40周年に参加させてもらって、柴田亜衣さんの記念式典の講演を聞かせていただいた。もう何回か鹿屋に来られて話をされていると思うが、亜衣さんが話をされたことを自分でまとめてみた。話をまとめながら私が感じたのは、結論から言えば、柴田亜衣さんは取るべくして金メダルを取られたのだということである。亜衣さんは、子供の頃はその辺にいるような、普通の子供です。水泳をはじめたきっかけも「何となく」なのである。しかし、次第に欲が出てきてベストタイムを意識するようになり、鹿屋体育大学に入学するために、記録への挑戦、自分との戦いが始まったわけである。全国大会で8位まで入れば推薦が貰えるということで、頑張って全国大会で5位までなった。鹿屋体育大学に入ってから目標は、大学1年の四角囲みの目標が素晴らしい。私はこの段階でもう4年後のアテネオリンピックの金メダルが見えてきたのではないかとと思っている。二つ目標を立てている。「水泳が強くなりたい。(100%)」その強くなりたいのも半端じゃなく、100%ですよ。100%強くなりたい。もう一つの目標が素晴らしい。「具体的な目標を自分でしっかり考える。(途中のラップタイム・理想のレース)」要するに泳ぐときのイメージである。途中のラップを何秒で刻んで、結果800mで最後にこういうレース展開に持っていくということを1年生にして持っていたということである。このことが大きかったと思う。いよいよ、アテネオリンピックに行くときの大学4年生の時の目標が素晴らしい。「世界の人たちと勝負する。(そのためには、マイナス思考をやめる)」

まず、ここからである。そして大きな目標が二つ。最高のパフォーマンスができるには、適度な緊張とリラックスを自ら求めていく。そして、「あわてず、焦らず、あきらめず」という背景には、いつものように自分らしく泳ぐということである。これは、監督の田中先生から頂いた言葉だと言っておられた。この時、私は全然記憶になかったのであるが、800mの予選の記録は3位だったそうである。考えてみたら予選3位だったら調子次第では当然金メダルに手が届くところにいる。だから、当時まったくの無名選手であった子が自分の目標を大事にしながら、結果として金メダルが取れたということである。

目標を持つことの大切さと合わせて目標を持つことで学んだこと。これが非常にいい。最後の四角囲みである。終わりのところに三つ書いてある。1点目は、自己分析力が身に付いたということ。自分の強み、弱みは何だろう、次のステップに進むためにはどうすればいいのだろうということである。2点目は、先程福里委員がおっしゃたが、失敗は悪いことではない。失敗から学ぶということ。3点目がモチベーションを保つということで、できないではなくて、できることに取り組んでいく。そうすると、自分がやるべきことが見えてくるという話をされておられた。今は、所謂、水泳の指導者として、スイミングアドバイザーという仕事をしながら、こういう講演活動もされておられる。当日も鹿屋に来られたわけではなく、東京からオンラインでの講演であった。決して派手さはないが、やっぱり彼女の言葉には説得力がある。落ち着いた本当に丁寧な口調で話をされる方で、すごくいい話を聞いたなと思って紹介した。是非、また子供たちにも目標を持つ大切さを伝えていって欲しいと思っている。失敗は悪いことではない。その通りである。失敗しながら大きな事を学び成長していくのだからと思うことである。

教育総務課長 4課長から9月11日から10月11日までの主な行事等の実施状況につ  
学校教育課長 いて報告するとともに、10月12～11月8日までの行事予定についてお知  
社会教育課長 らせした。  
国体推進課長

6 閉 会